

輸出事業計画

※申請者名：秋田牛輸出促進コンソーシアム、品目：牛肉

1. 輸出における現状と課題

●現状

- ・本県の肉専用種肥育経営の飼養戸数及び頭数は、令和5年で72戸、6,910頭で、平成26年度にオール秋田の秋田牛ブランドが創設されたことなどにより、飼養頭数、1戸当たり頭数とも増加傾向にある。黒毛和種の年間と畜頭数は約4,400頭で、そのうち約7割が首都圏等で販売。
- ・秋田牛については、関係者から脂の質や旨味の強さなど食味について評価いただいており、首都圏の大手食肉事業者では更なる増産を要望。
- ・グローバル化の進展により、激化する国内外での産地間競争に勝ち抜いていくため、販路拡大等一層の取組が必要不可欠。

●課題（タイ、台湾）

①生産体制

- ・意欲的な担い手を中心に規模拡大が進展しているものの、労力不足が課題。
- ・肥育期間の短縮と高い上物率を実現するための肉用牛改良の一層の推進と、飼養管理技術向上による優良な素牛生産が必要。

②食肉加工

- ・輸出量の増加に伴う出荷作業への対応、及び、一時的な需要増の際の部分肉加工等に必要な人員確保が困難。
- ・輸出拡大に向けた対象国の拡大や加工工程の追加については、大規模な施設改修が必要。

③販売促進

- ・1頭フルセット販売に向け、輸出先国における卸、量販店でのカット技術の習得が必要。
- ・輸出先国における多様な販路の開拓および販売方法への対応が必要。

2. 輸出事業計画の取組内容

●取組（タイ、台湾）

①生産体制

- ・自動給餌器や監視装置等 I C Tを導入し労働力不足の補完に努める。
- ・国内外での県産牛肉の評価を高めるため、育種価を活用した優秀な種雄牛造成を推進し、優良肥育素牛の安定供給に向けて飼養管理技術の向上を支援する。

②食肉加工

- ・加工技術の継承と輸出量の増に向けた人員を確保する。
- ・国の支援と県内市町村や関係団体の理解・協力を得ながら、施設整備の検討を進める。

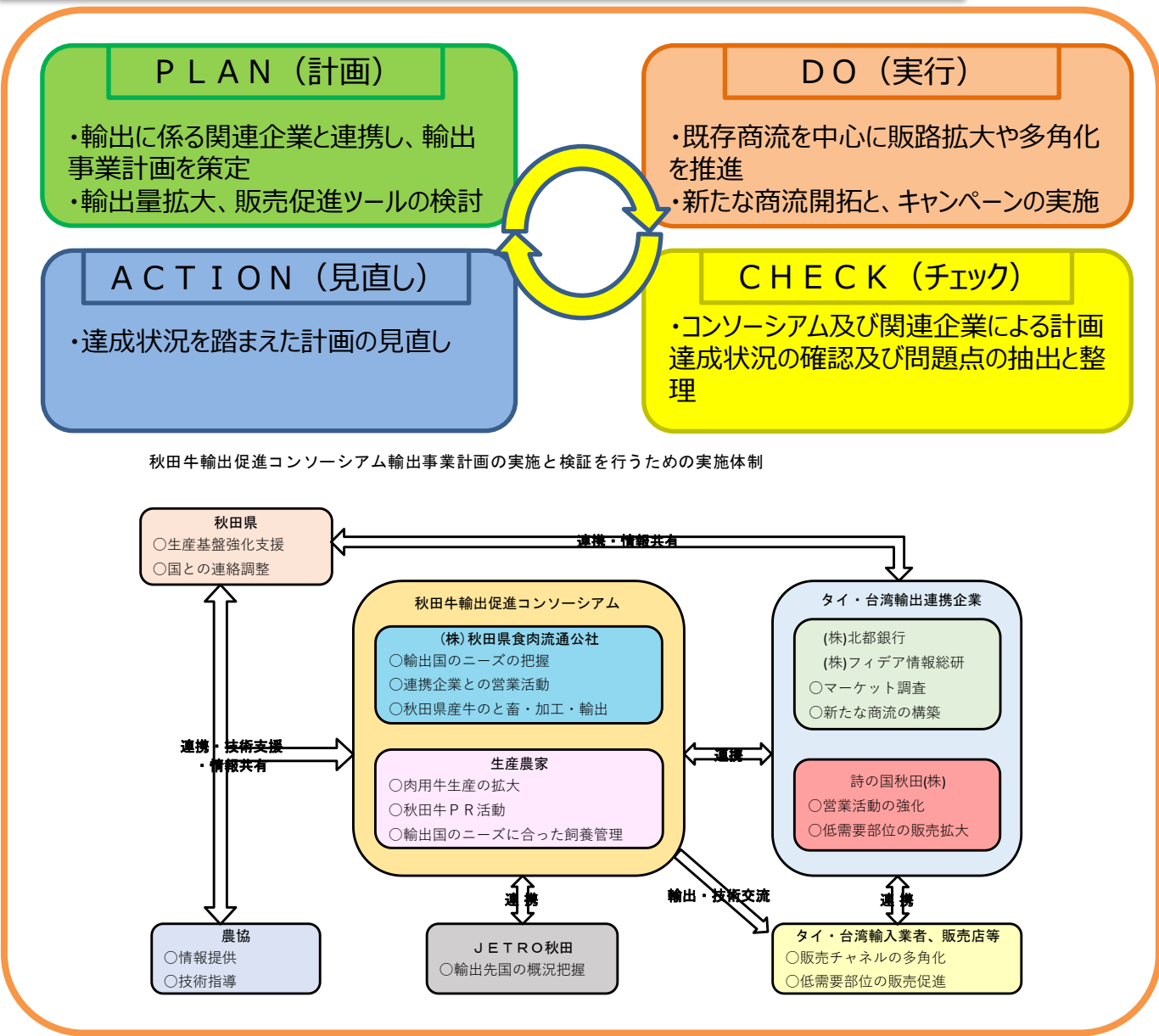
③販売促進

- ・牛肉カット技術の指導等の実施による、1頭フルセット輸出を推進し、高級部位以外の需要拡大に取り組む。
- ・消費者の注目度が高い E C サイト等販路の多角化を推進する。

輸出事業計画

※申請者名：秋田牛輸出促進コンソーシアム、品目：牛肉

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状 令和 2 年度	目標年 令和 7 年度
輸出額 (千円)	58,510	260,689
輸出量 (kg)	10,000	47,000
輸出先国	タイ、台湾	タイ、台湾